

水問題を考える

水戸東ロータリークラブ
社会奉仕委員会 奥貫 守

水戸東ロータリークラブは、平成18年、創立20周年記念の一環として、水戸市逆川緑地公園内の遊歩道沿いに、30本のソメイヨシノの若木の植樹を行いました。

これは、正しく国際ロータリー第2820地区社会奉仕のテーマである『水保全 環境保全』に基づいた事業でありました。この事業は、水戸の水保全・環境保全を考えると、水戸藩 第二代藩主、徳川光圀公の偉業である笠原水道の水源及び逆川 桜川 千波湖周辺の水環境を大切に守っていく私達の意志を示すために、日本の代表的な花木である桜の若木を、この地に植樹して、故郷である水戸の環境を守り、保って行くこと、郷土の美化に努めてゆくことを、私達と共に、水戸の市民の方々にも持ち続けていただきたいという願いを込めて行ったものであります。あれから3年が経ち、サクラの木々は、すくすくと育ち、自然環境の保護という目的を達成しつつある。

さて、視点を大きく世界に向けてみますと、現在の地球の人口は61億人を超過しており、更に2050年には約90億人位まで増加すると言われています。したがって、これから半世紀の間に約30億人が増える計算となり、そのほとんどが、アジア、アフリカ、中南米などの発展途上国であると予想されています。先進国の人口はこれ以上増えず、また水の需要も増えないと見込まれていますが、発展途上国の人口がこれから増えていけば、当然のことながら水の需要に困ることが予想されます。

今でも、例えば中近東から北アフリカ（砂漠もしくは半砂漠の国）に於いては、すでに相当に深刻な水不足状況となっており、その水不足や水汚染、さらに伝染病などが原因で年間に400万人以上の死者が出ており、これは平均すると8秒間に一人が亡くなっているという恐るべき数字であります。このような世界の深刻な事態を、我々日本人は十分に理解していないのが現状であります。自分の国には十分な水があるから関心がないという考えでは、これからの世界では通用しなくなってきているのではないかと思います。

しからば、これからどのようにすれば良いのかと誰もがまず考えるのは、地下水の利用ではないでしょうか。しかし、この地下水も、世界的にはすでに危機的状況にあると言われています。一回井戸を掘ると、その後は電気代だけしかかからないため、手間も掛からず維持が安く、温度も低い良質な水が低コストで調達できるため、どこの国でも汲み上げ過ぎの状況となっております。その結果、水の汲み過ぎにより世界のいたるところで地盤沈下が発生して深刻な影響が出ているとの報告があります。中国では、地下水の水位が下がってしまったため、さらに深い井戸を掘らなければ水が出ないので、金持ちだけしか井戸が掘れないと言われています。先進国においても、アメリカのロッキー山脈の東あたりでは、すでに井戸から汲み上げが出来なくなってきたとの報告もあります。

要するに、水の汲み上げ過ぎの影響で、地下水はどこでも水質が良いといったこれまでの通説がおかしくなり始めています。特に深刻なのはバングラディッシュであり、地下水に砒素が入っている状況です。現在のバングラディッシュの人口は日本と同じくらいですが、5～6年後には

1億5,000万人くらいになると予想され、大量の水を供給するために多くの井戸を掘り出したため水の出が悪くなり、さらに深い井戸を掘らざるを得なくなりました。しかしその一番低い層に、砒素を含んだ層があった為、この水を飲んだ人たちの多くが砒素中毒に掛かり、今やこの砒素中毒が非常に深刻な問題になっています。その他にも、インド東方、ベトナム、中国などアジアのいたるところで地下水による砒素中毒が始まっています。これらの問題は、資金を注入してもすぐに解決できるものではなく、簡単に解決できる問題ではないのです。

また日本は、自給率が40%の食糧や木材の多くを他国から輸入に頼っております。しかし、輸入するほとんどの商品の生産過程で大量の水を使用していることから、間接的には食糧を輸入していると同時に水も輸入していることになります。つまり我々の毎日の食卓に於いては、毎日外国の水を大量に飲んでいるという事実をもっと知るべきであります。現段階では、このようなことに対する認識が殆どなく、何の手だても打ってはいけない事実からみても、もっと食糧の自給率を上げるべきであると考えます。先進国のなかにおいても日本ほど食糧自給率が低い国はないのですから、水の問題一つ考えてみても日本の食糧自給率を上げることは対日輸出国の水使用を減少させることになるのであります。

最後に、今後の我がクラブのこの世界的な水問題の解決への取り組みを考えたとき、まずは途上国における人口の抑制を、教育、疾病、飢餓問題の解決への手助けは無論のこと、地球の水の97%を占める海水から真水を作り出す技術を持つ企業に対する応援や、途上国がプラント設置を容易にする為の資金に対してロータリー財団を通して資金が流れて行くように協力することを会員に認識させ財団に対しての寄付の推進に努力いたしたいと思います。

以上